

第 66 回ミラノ展 (EICMA) 参観報告

昨年より自転車展(Bici)とオートバイ展(Moto)の合同開催の形態に戻った 66 回目のミラノ展が 2008 年 11 月 4 日(火)~9 日(日)の 6 日間、ミラノ国際見本市会場で開催され 50 万人もの来場者が詰め掛けた。

【66thInternational Bicycle and Motorcycle Exhibition】

主催： EICMA (Esposizione Internazionale del Ciclo e Motociclo)

会場： FIERA MILANO (ミラノ国際見本市会場)

会期： 2008 年 11 月 4 日(火)~9 日(日) 4, 5 日招待客日、6~9 日一般公開日

開催時間： 10:00~18:30 (7 日は 22:00 終了)

使用ホール： (自転車) 展示：5 ホール、催事：7 ホール

(オートバイ) 展示：2, 4, 6, 12, 14 及び 18 ホール、催事：屋外会場

入場者数： 500,000 人 (前年 535,000 人)

出展者数： (自転車) 164 社 292 ブランド (前年 210 社 452 ブランド) ※

(オートバイ) 561 社 (前年 760 社) ※

※出展ガイドより集計



朝から大勢の来場者が詰め掛けた (左;会場入り口、右;Bici 展示ホール付近)

展示会概要

昨年は自転車展のホール 5 全体と 7 の約半分を出展社が占め、残り半分をトラックコースが占めるフロアプランであったが、今年のホール 7 は 6 日間レースと MTB の競技コースで全て占められ、出展社はホール 5 の 1 箇所のみとなり、展示面積は昨年 1.5 ホール分から 1 ホールに減少、出展者数は前年比 20% 以上も減少した。

出展ブランドも地元イタリアメーカーのビアンキ、コルナゴやデ・ローザなど主要ブランドは大きなブースを構えていたが、昨年大きなブースで参加していたピナレロやパークプリが今年は見られず、他にもモーゼル、フォンドリエスト、アタラやオルモなども出展していなかった。また昨年は数社見かけたチタンフレームの中小メーカーなども減少した。

部品ではカンパニョーロを始め、シマノの電動デュラエースなども注目を集めていたが、

GRUPPO グループのブースはチネリのピスト車展示が主でチネリのハンドル、ステムやコロンバスのパイプの出展は見られず、中堅のコンポメーカーのミッチェ、サドルのセレ・ロイヤルなども出展しておらず、EICMA 全体としては会場には多くの一般来場者がつめ掛け盛況の様子であったが、自転車企業にとってビジネスという点で見れば若干寂しさを感じる内容であった。



クオータ



カサティ



カンパニョーロ



Deda

クラシカルな自転車

いくつかの有カブランドが欠ける中、今回はクラシカルな外見のシティ車を数多く展示したり、また、最先端のカーボンフレームのほかに、ややクラシカルな仕様のスポーツ車を加えるなどした出展社もいくつか見られた。フレームは主にクロモリパイプのものが目立っていた。色は黒や白、茶系や緑系の中間色など落ち着いたものが多く、ブランドロゴなどの派手な表示は殆ど無い。サドルやバーテープには茶系レザーの品をあしらい一層雰囲気を出している。独や蘭市場で主流の太いアルミパイプ、サスペンション、ライトや荷台などの装備が豊富なシティ車やトレッキング車と比べると随分質素に見える。昨今の自動車燃料代の高騰により、移動手段として再度、自転車需要を当て込んだものと思われ、従来イタリア市場で量販店や大型スポーツ店で多く販売されてきた廉価な MTB タイプとは異なり、ファッ

ションやデザインに敏感なイタリア人の嗜好にあわせた自転車をこれらの各社は提案しているとみられる。



各小間で見られたクラシカルなスタイルの自転車

本展示会に新たな競合相手「Expo Bici」(パドバ展)

今年から、9月20～22日の3日間、イタリア、パドバの見本市会場にて「Expo Bici」が初めて開催された。出展111社うち大半の99社はイタリア国内からの出展で、海外からは僅か12社であったが、同展の来場者は22,000人を数えた。当初は実際に開催できるのかどうか不安視する声もあったが、今年の開催実績を踏まえ、主催者側では来年は、9月19～21日に開催を予定し、さらにこれから毎年開催する計画であると発表された。

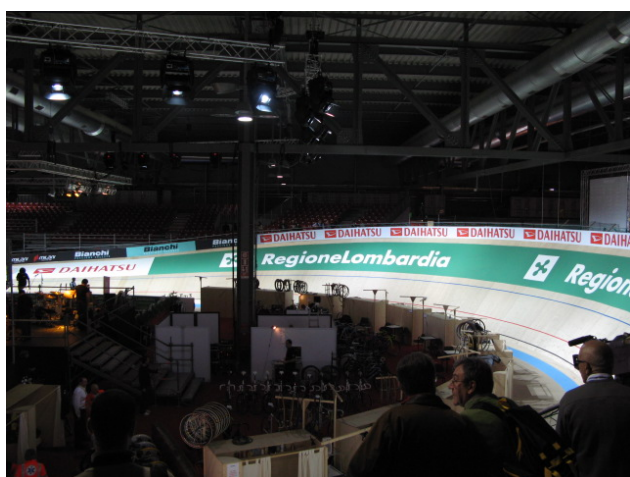
昨年よりEICMAがオートバイと合同の二輪車展に戻り、開催時期が11月上旬と大幅にずれ込み、ビジネスの場としては遅すぎるという意見がしばしば聞かれた。自転車産業を地場産業とするパドバとその周辺地域の官民が一体となって、商談時期としてより適切な9月開催の自転車展示会を新たに立ち上げたことは、当然の成り行きであると考えられる。

これからの課題

パドバ展のイタリア出展99社のうち、今回EICMAと両方に出展したのは24社であった。残り75社はパドバ展のみで、そのうち8社は昨年までEICMAに参加していたフォンドリエスト、パークプリ等である。その他にもシンテシィ、オリンピア、ダッコルディ、ウィリエールや

パッソがパドバを選んだ。現在はイタリアの地方展に過ぎないが、かつての EUROBIKE の始まりがそうであったように、また EICMA と並び隆盛を極めた IFMA が奇しくも今年終焉したことを考えると、展示会自身も生き残りをかけ、出展社の希望に沿う内容を提供する努力が今後は一層求められる。

来年、EICMA は 2009 年 11 月 10～15 日の開催予定とされているが、今年の出展参加状況やパドバ展との競合を踏まえ、主催者の伊二輪車工業会（ANCMA）では自転車ビジネスショーの場を新たに設けることを模索中とのことであるが、今のところ 11 月開催の EICMA が最良であるとも述べている。同展は 50 万人もの動員を誇る催事であり、来場者のために今年は MTB レースも開催し集客へ向けた努力は伺えるが、イタリア自転車業界はビジネスの場としてどちらの展示会を選ぶのか、その動向に注視しなければならない。



ホール 7（左；トラックコース、右；MTB コース）

以 上

（デュッセルドルフ事務所）